平成二十八年度　宮城県多賀城高等学校第三十九回卒業式式辞

二十四節気の雨水を過ぎ、時折、柔らかな風が梅の香りを運んでくれます。まさに、命の躍動を感じる草木萌動季節となりました。

ただ今卒業証書を授与された二七三名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。そして、保護者の皆さま、お子さまのご卒業、誠におめでとうございます。お子さま方のハレ姿に感慨も一入と思います。改めまして、これまで本校の教育活動に対して頂戴しましたご支援、ご協力に感謝申しあげます。

また、本日はご多用の中、多賀城市長　菊地健次郎　様をはじめ、多くのご来賓の皆さまにご臨席を賜りました。心から感謝と御礼を申し上げます。

さて、卒業生の皆さんは三年前の入学式を覚えていますか。私は式辞の中で二つのことに取り組むようにと話し、相田みつをの「いま、ここ」という詩をプレゼントしました。一つは「自分の目標を掲げて日々の生活を律してほしい」ということ、もう一つは「親友と呼べる友を得てほしい」ということでしたが、いかがだったでしょうか。

振り返れば、皆さんは日々の学習では授業第一を実践し、部活動との両立を目指しながら勉学に励みました。つくば研修やアカデミックインターンシップへの参加など、例年以上に進路意識を高め、三年生になってからは早朝や放課後も、教室や学び処で多くの生徒が真剣に自学自習に取り組む姿がありました。

部活動の活躍も素晴らしいものがありました。昨年夏のインターハイには山岳部とテニス部が出場し、吹奏楽部は全日本吹奏楽コンクール東北大会で銀賞を獲得しました。弓道部の全国選抜大会出場やラグビー部の全国高校合同チームでの優勝もありました。なにより運動部も文化部も生徒が主体的に活動する姿は、爽やかなあいさつやボランティア活動とともに多高の誇りです。

多高三大行事も見事でした。これまでの伝統の上に新しいアイデアを盛り込み、多高祭では懸案だった中庭がアコースティックステージとなり、体育祭では皆が楽しめる種目が加わりました。実行委員や関係する部活動の一人ひとりが役割を果たそうと努めました。三大行事の充実は、生徒会長を始めとする生徒会執行部の下支えと信頼しあえる仲間とのチームワークによって成し遂げられたと言えます。

ところで、卒業生の皆さんは六年前、小学六年生で東日本大震災に遭遇しました。卒業式を間近に控え、学校によっては例年どおりの卒業式ができず、中学校入学も四月半ばとなりました。家族を亡くし、家を失い、言葉にできない辛い生活に耐えながら、前に向かって成長してきた人もいます。しかし、高校を卒業する今、故郷を離れて進学する人や公務員として社会に出る人もいます。それぞれが決めた進路に一歩踏み出しますが、皆さんを取り巻く社会は大きく変わろうとしています。皆さんが生きてきたこの二十年近く、日本経済はデフレ状態が続き、さらにグローバル化の中で不確実性が高まっています。そうした困難な状況に立ち向かう皆さんに、激励となるお話をして餞とします。

以前取り上げたノートルダム清心女子大学の理事長を務められ、昨年十二月に亡くなられた渡辺和子さんの著書に「置かれた場所で咲きなさい」があります。三十代半ばという若さで学長となった渡辺さんは、次々と困難な出来事にぶつかり自信をなくしたそうですが、その頃の様子を次のように書いています。

「初めての土地、思いがけない役職、未経験の事柄の連続、それは私が当初考えていた修道生活とは、あまりにもかけはなれていて、私はいつの間にか“くれない族”になっていました。『あいさつをしてくれない』こんなに苦労しているのに『ねぎらってくれない』『わかってくれない』」

そうした時に一人の宣教師からもらった詩の冒頭の言葉が「置かれたところで咲きなさい」という言葉だったそうです。渡辺さんは、置かれた場に不平不満を持ち、他人の出方で幸せになったり不幸せになったりしては環境の奴隷だと理解し、人はどんな場所でも幸せを見つけることができる、境遇を選ぶことはできないが、生き方を選ぶことはできる、と考えるようになったと書いています。

そこで、私が皆さんに伝えたいことは、目に見えない物事への想像力を大切にしてほしいということです。思いやりと置き換えることもできます。自分に見えていることだけで判断するのではなく、見えてはいなくても心を動かして想像力を働かせることで理解できることがあります。例えば、トイレが汚れていれば目に見えますから、誰かが汚したと分かります。しかし、いつもトイレがきれいだとします。なぜきれいなのかということは、トイレ掃除をきちんとしたことがない人には、すぐには分かりません。想像力を働かせれば、いつも丁寧に掃除をしてくれている人の存在に気づきます。そして自ら行動することにつなげれば、置かれた場所で咲くことができるのです。置かれた場所とは、常に「いま、ここ」だと私は考えます。

皆さんはとても素敵な青年に成長しました。しかし、人生には風の冷たい日もあります。息苦しくて立ち止まる日もあります。どうか、一人ひとりが置かれた場所で社会に貢献するという明確な目標を掲げて、多賀城高校で培った「さとき智恵」「豊かな心」「たくましい体」で未来を切り開いてください。

未来を創る能力（ちから）をもった卒業生が着実に一歩を踏み出し、大いに活躍することを確信して式辞とします。

平成二十九年三月一日

宮城県多賀城高等学校長　小泉　博